

平成26年度第3回考古学講座

8月30日(土)

かながわ県民センター 2階

甲斐武田氏も攻めた戦国時代の堅城

— 津久井城山頂部の調査成果 —

公益財団法人かながわ考古学財団

相良 英樹

津久井城跡（本城曲輪群地区）

1. 調査概要
2. 記録にみる津久井城
3. 津久井城山頂部調査成果

1. 調査概要

【調査目的】 都市公園整備工事に伴う発掘調査

【調査期間】

2008年4月16日～5月31日

2009年4月16日～5月31日

2010年4月16日～5月31日

【調査面積】 561 m²

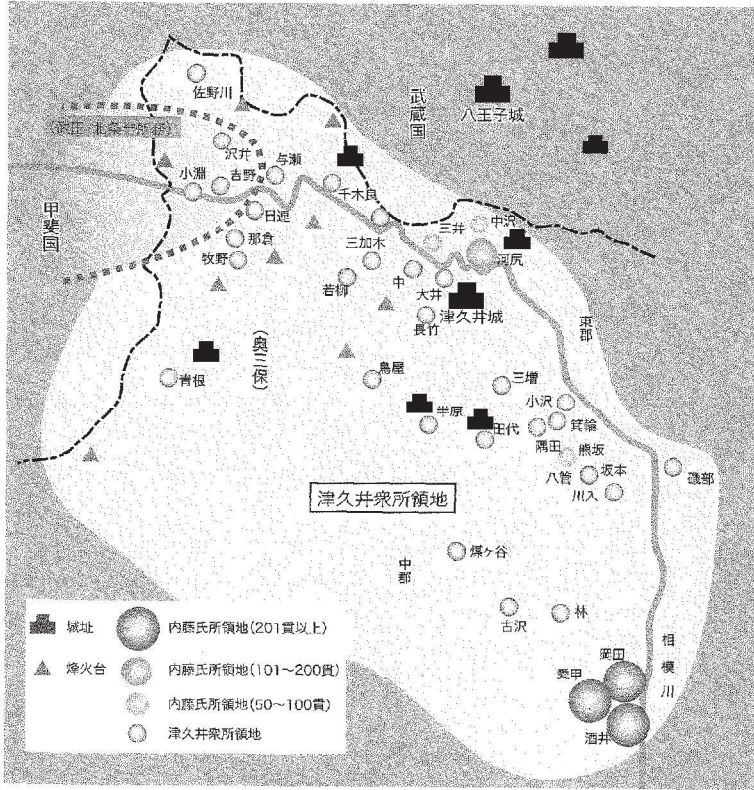
【時代】 中世

【主な出土遺物】 陶磁器・土器・鉄製品・石製品

2. 記録にみる津久井城

- ・大永4（1524）年、津久井城城主内藤大和入道が、青山の光明寺に菜園を寄進する。『内藤大和入道寄進状』
- ・大永5（1525）年、武田信虎、北条氏綱との合戦。「津久井の城は未だ落ちず」『妙法寺記』
- ・永禄12（1569）年、古河公方の足利義氏が、小山秀綱に、北条氏照の滝山城と隣接する津久井城の普請を命じている。『足利義氏書状写』
- ・元亀2（1571）年、北条氏政が、津久井衆の井上・野口氏に、河村城・足柄城の普請役を命じている。『北条家朱印状』
- ・天正12（1584）年、10月2日、北条氏直が山角定勝に、津久井城の当番衆を命じた際の曲輪内での掟について定めた書状。『北条家定書』
- ・天正18（1590）年、4月19日、豊臣秀吉が徳川家康家臣の井伊直政が津久井城を攻囲し、城中から出た足軽2名を討ち取った戦功を認め、褒賞する。『豊臣秀吉朱印状』
- ・天正18（1590）年、5月24日、津久井城城主内藤綱秀が津久井城の普請を三ヶ村に命じている。『内藤綱秀印状写』
- ・天正18（1590）年、6月2日、津久井城城主の内藤綱秀が秦野の名主中へ麦作に従事するよう申し渡し、村内での津久井衆の非法を禁ずる。『内藤綱秀朱印状』
- ・天正18（1590）年、6月25日、徳川家康が本多忠勝等に、陥落した津久井城の城受取りを許可する。『徳川家康書状写』

『小田原衆所領役帳』(1559年)による津久井衆所領



内藤氏系図

内藤大和入道



朝行



康行

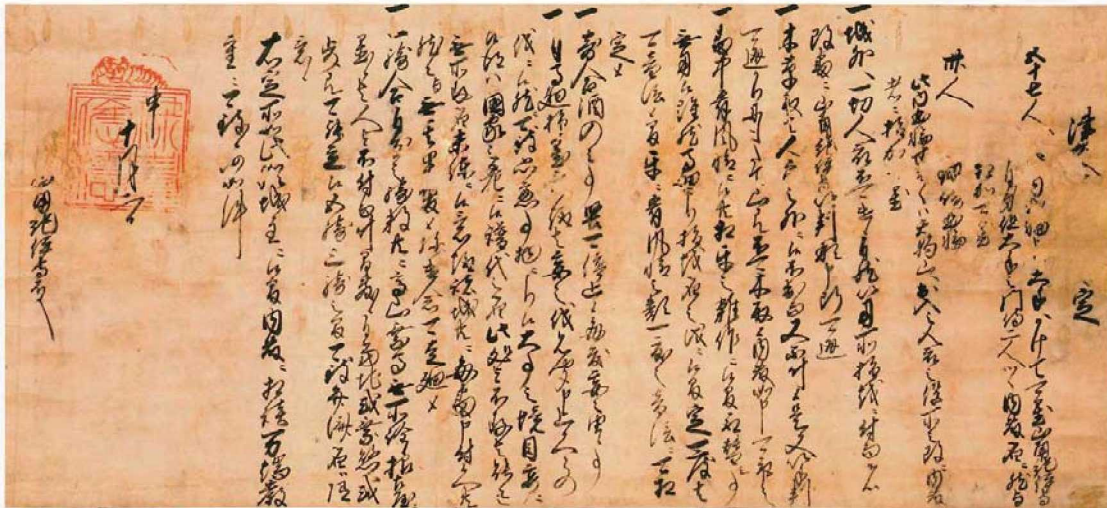


綱秀



直行

『津久井城定書』(1584年)



57 北条家朱印状 1点

庶紙
30.5×67.0cm
天正12年(1584)10月2日
馬の博物館蔵

津久井 五十七人 □曲輪 □大手へかけて可置、山角紀伊守自身、但大手之門待二人ツ、内藤者ニ然与相知可置、

卅人 □崎曲輪

此内曲輪せまくハ天狗山へ出入之人衆之役所之改ニ内藤者ニ指加可置、

一、城外へ一切人衆不可遣候、自然以用所指越ニ付而者、改番ニ山角紀伊守以判形申断可通、

一、木直取之人衆之外ニ候、不出而又叶候、是又以手判可通、かりにもたて山にて不可木取候、内藤如申可取之、

一、番中者風情ニ候共、相互之雑作ニ候間、取替シ事無用候、雖然馬廻より指越者之儀ニ候間、定一度者可音信候間、互ニ者風情之乱一度之音信ニ可相定候、

一、寄合酒のミ事、堅可停止候、毎度安之由候事、

一、自馬廻指置意趣者、妄之儀見聞申上候へとの儀ニ候、然ニ可致思慮事物ニより候、大事之境目安ニ候得ハ、国家之危ニ候、譜代之者此処を不存者、能々之無所存者未難ニ候意趣、諸城共ニ毎番申付候へ共、然々其無其甲斐候、弥遺念可走廻候、

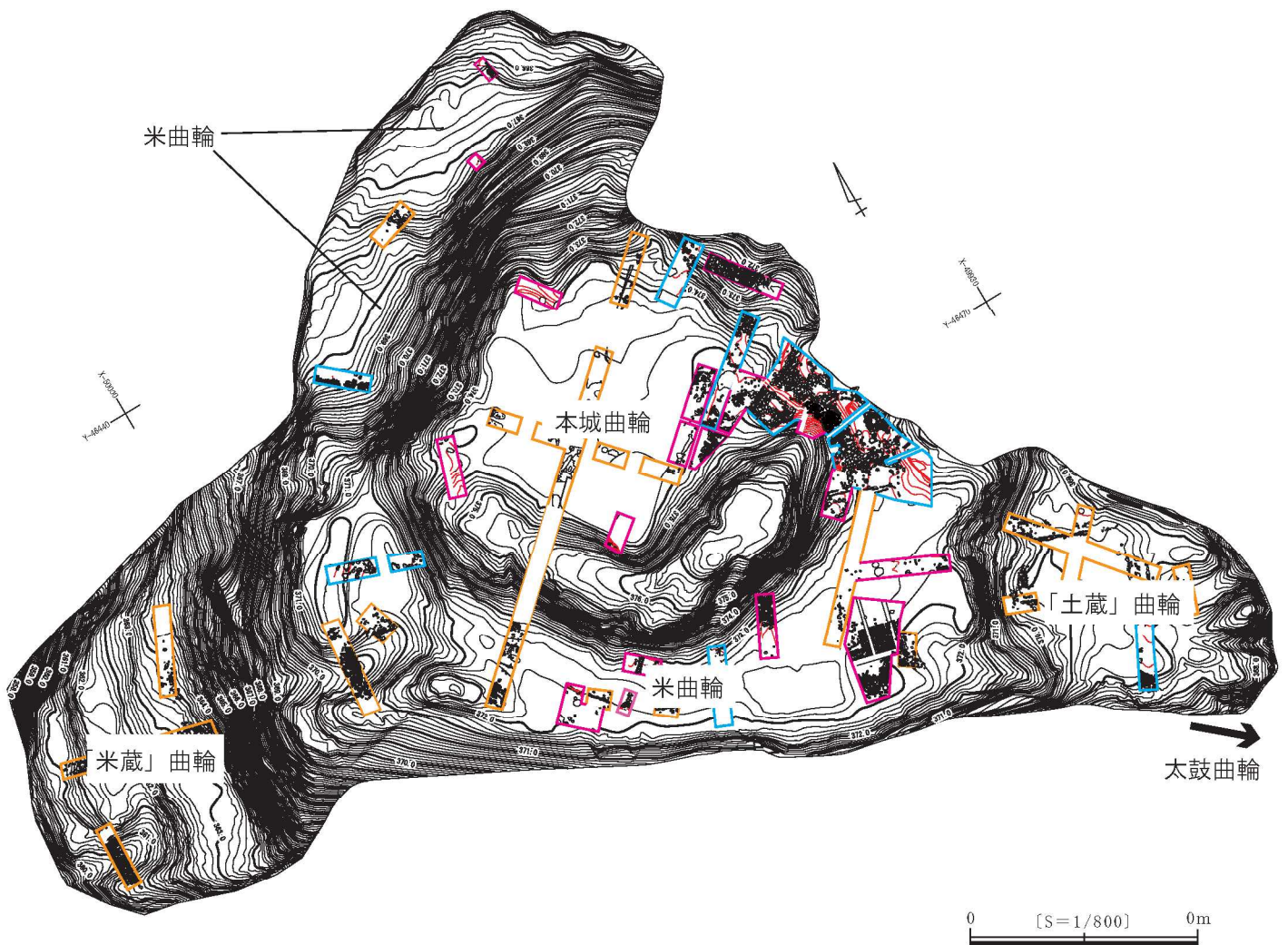
一、一騎合自分之騎数共ニ高山乘馬無所詮候様、古屋ニ置候者、人を不付而叶間數候、自当地或乘懸、或歩にて可越立候、五騎三騎之間可致弁済者ハ随意候、

右定所如此、猶城主ニ候間内藤ニ相談、万端嚴重ニ可致候、仍如件、

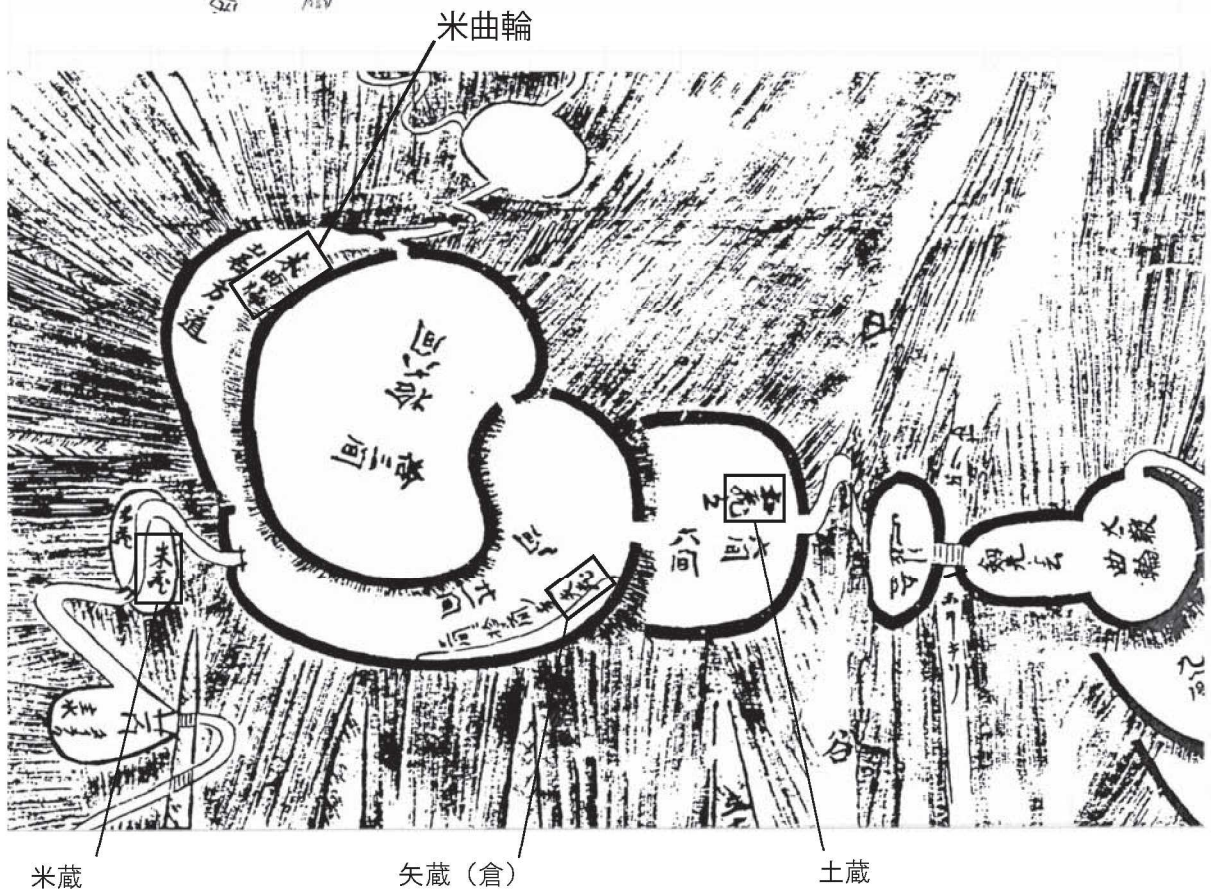
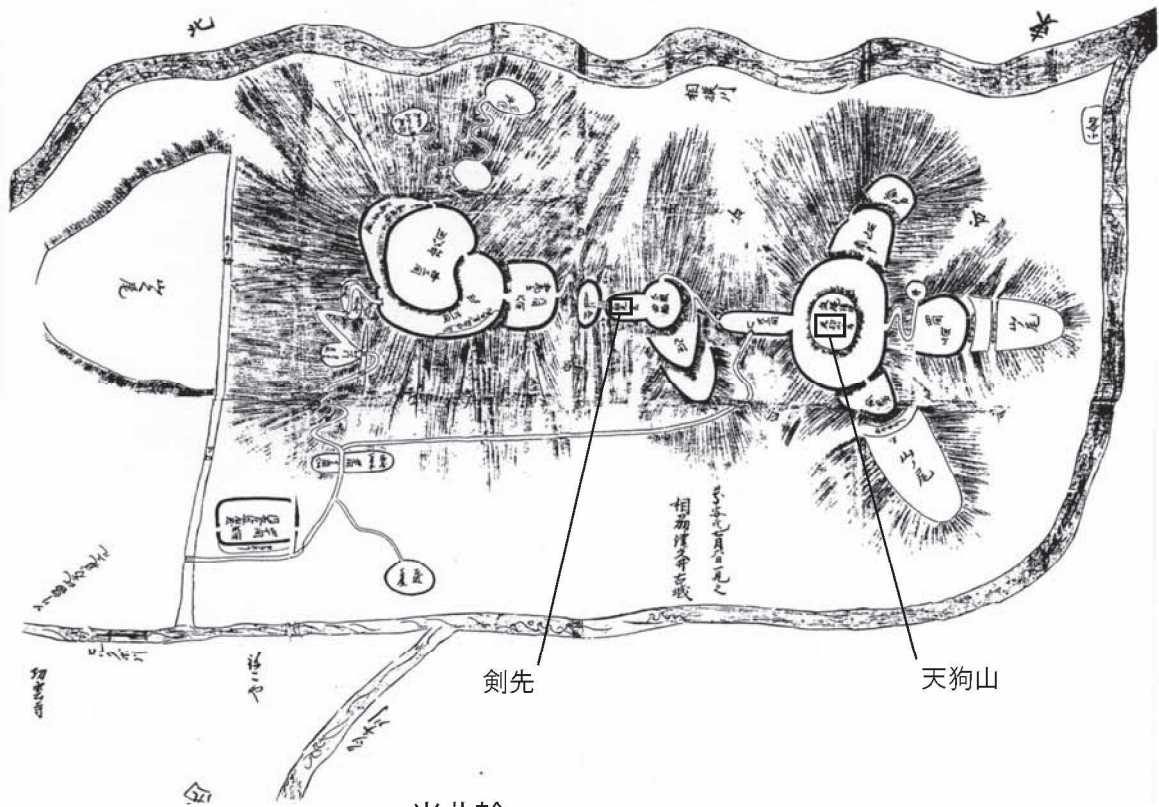
十月二日
山角紀伊守殿

3. 津久井城本城曲輪群調査成果

- ・「米蔵」曲輪
大手道から米曲輪へ通じる入口部分
- ・米曲輪
主郭を廻る曲輪
- ・「十蔵」曲輪
本城曲輪群と太鼓曲輪を結ぶ曲輪
- ・本城曲輪
主郭部分



津久井城本城曲輪群地区全体図



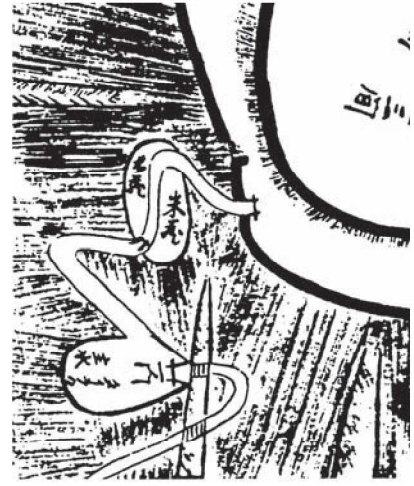
『相州津久井古城図』慶安元（1648）年

上：古城図全体図

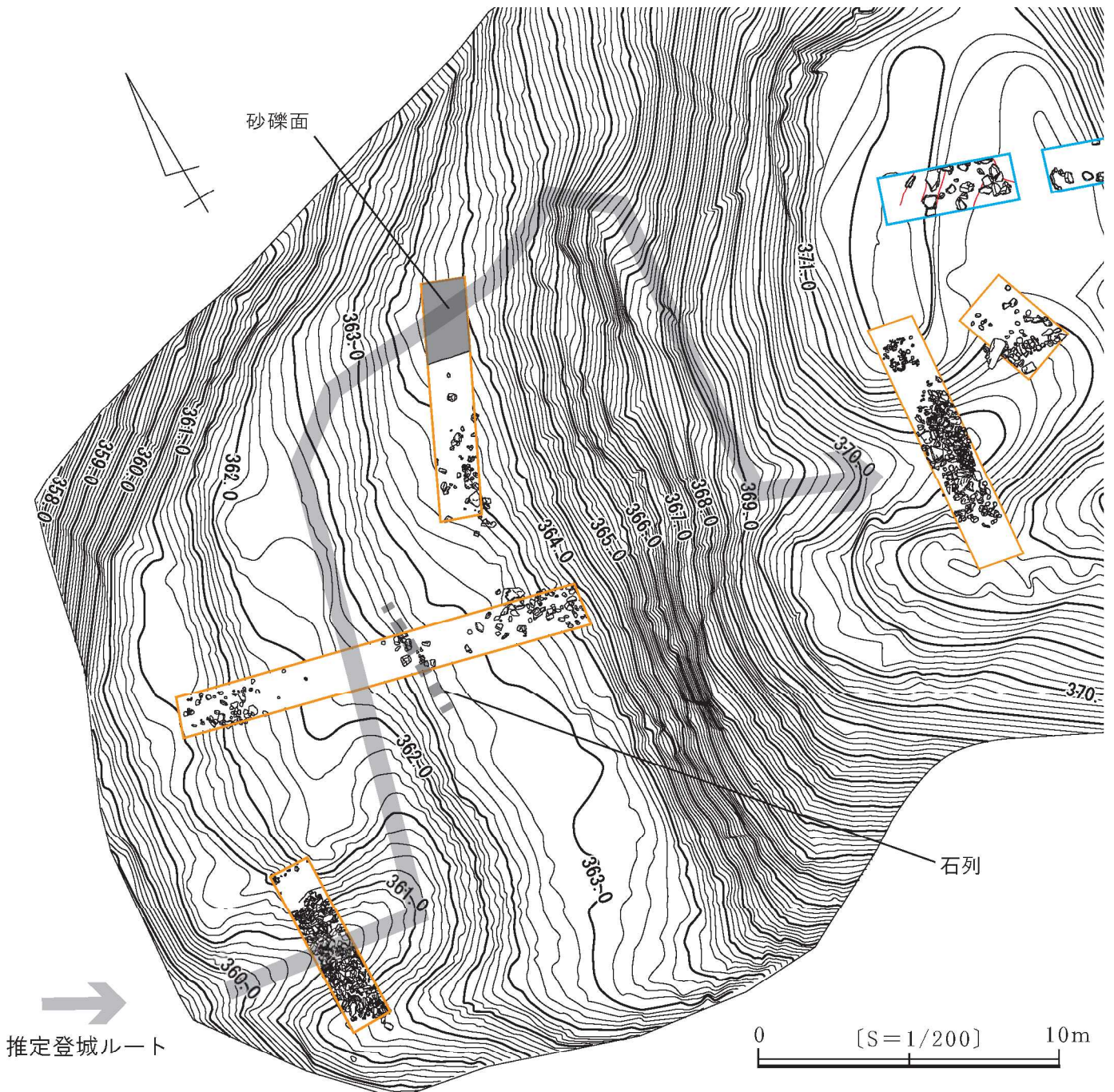
下：本城曲輪部分拡大図

□「米蔵」曲輪

- ・ 絵図に記された門の絵の箇所調査
- ・ 曲輪の平場面の調査
 - 虎口箇所から大量の礫を検出
 - 「城破り」の跡か
 - 石列遺構の検出
 - 曲輪内を区画
 - 砂礫面
 - 通路の跡か



相州津久井古城図（部分）



「米蔵」曲輪平面図

□「土蔵」曲輪

・曲輪の平場面の調査

石列遺構に囲まれた部分を砂礫により地業

→建物の基礎の可能性

暗渠状の石組遺構

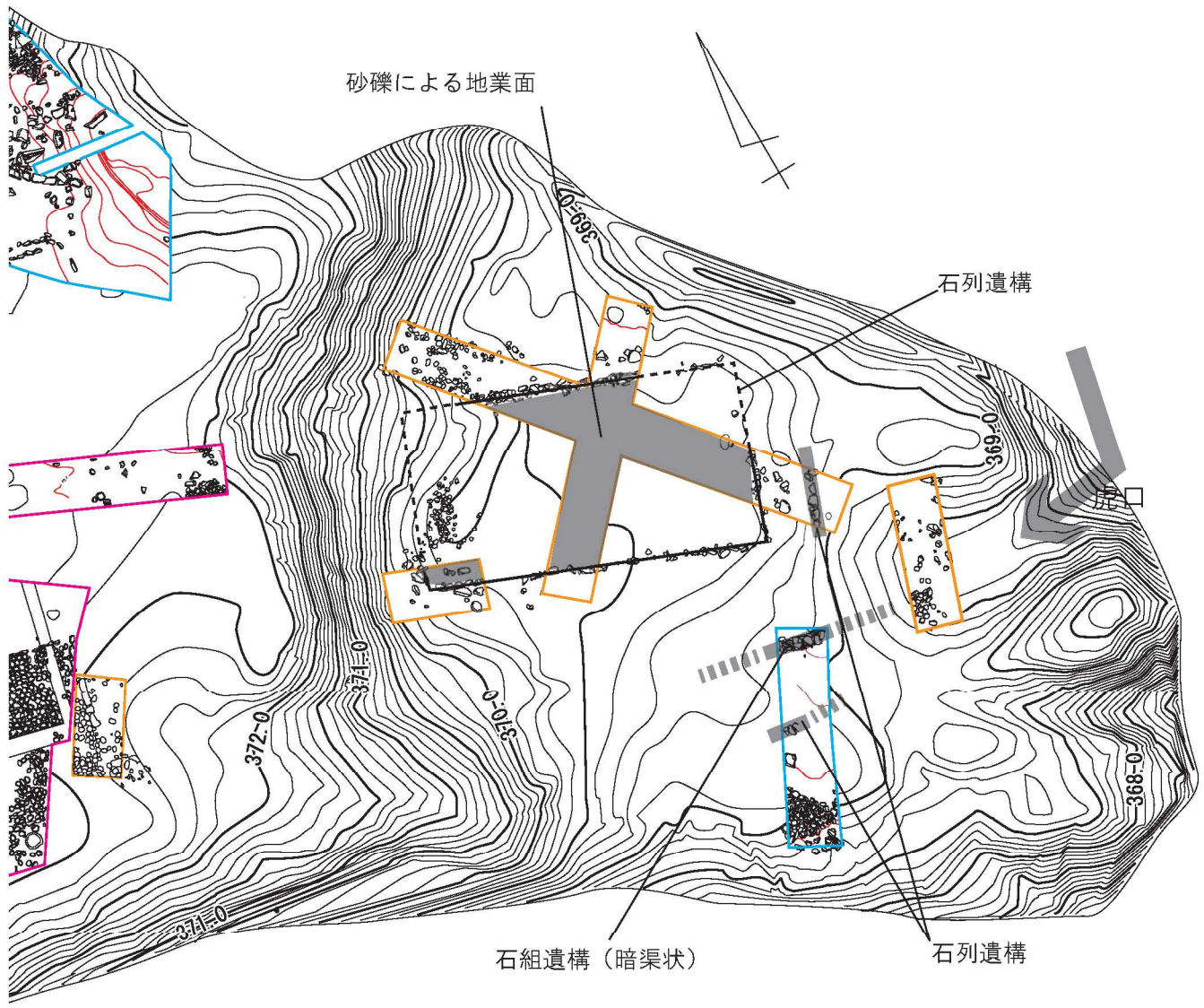
→排水施設

石組遺構より約 50 cm 下からも石列遺構

→複数の造成面の存在



相州津久井古城図（部分）



「土蔵」曲輪平面図

□米曲輪

・ 絵図に示された門・矢蔵箇所への調査

虎口推定箇所から大量の礫を検出

→「城破り」の跡か

暗渠状の石組遺構→排水施設

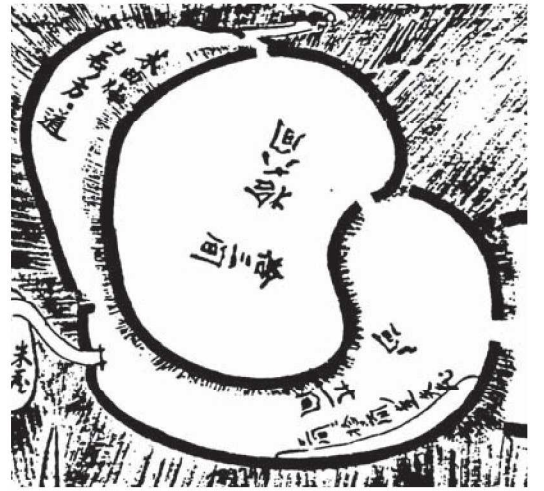
石列・硬化面・石組遺構→登城ルート

河原石による石敷遺構→虎口あるいは建物址

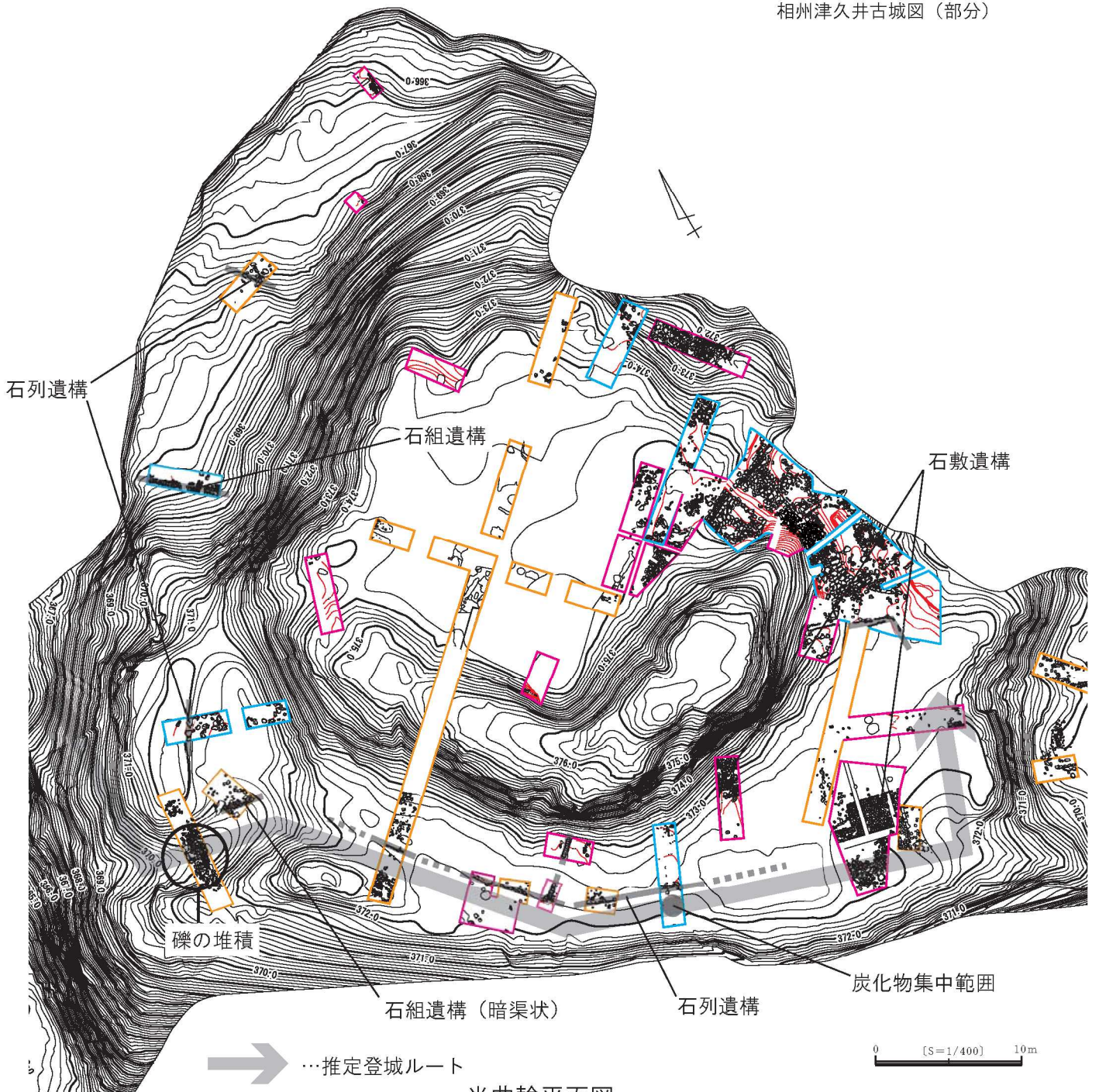
炭化したイネ・マメの出土

かわらけ付着物→漆

とりべ付着金属滓→錫・鉛



相州津久井古城図（部分）



米曲輪平面図

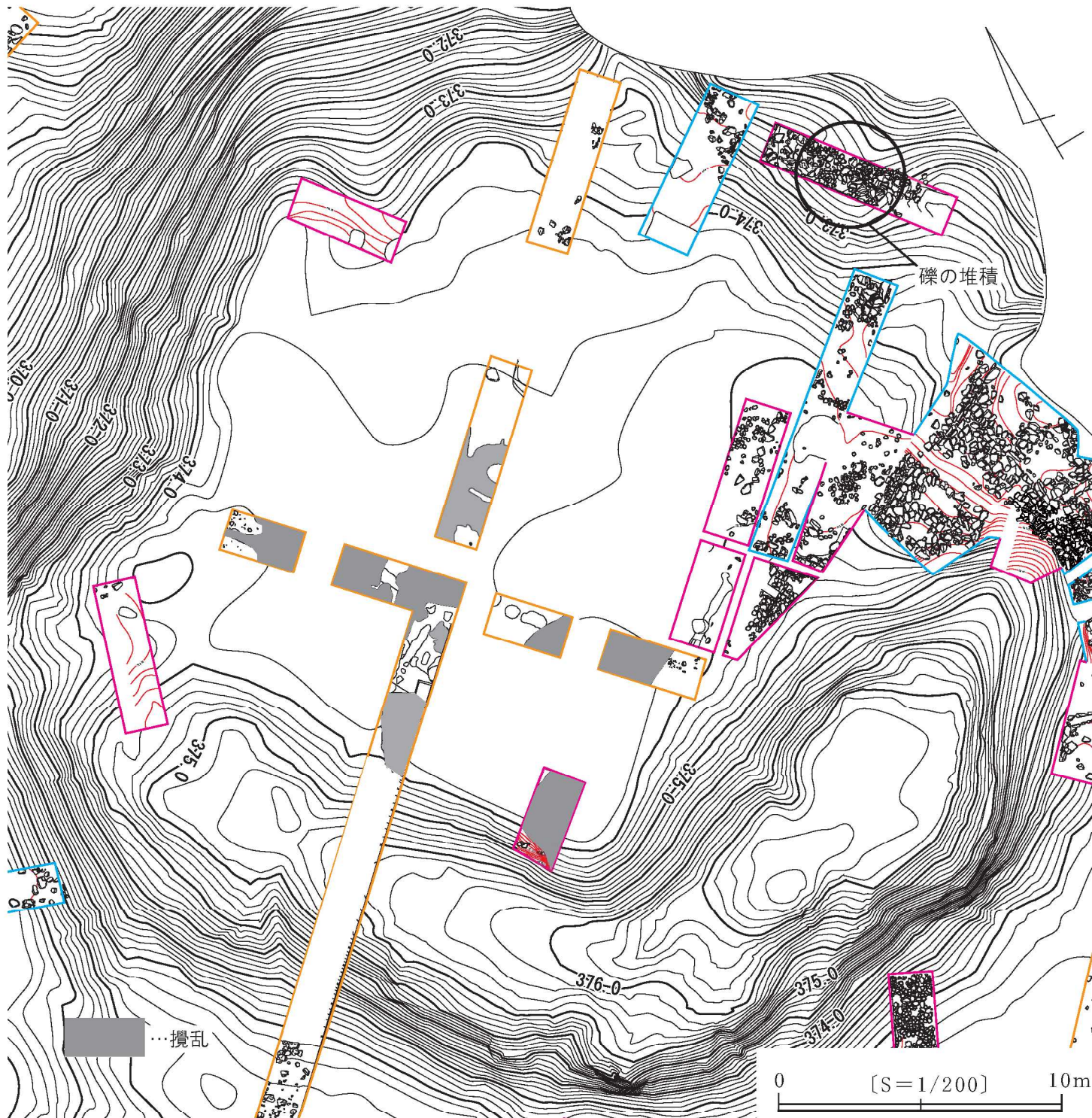
□本城曲輪

・絵図に示された主郭部分の調査

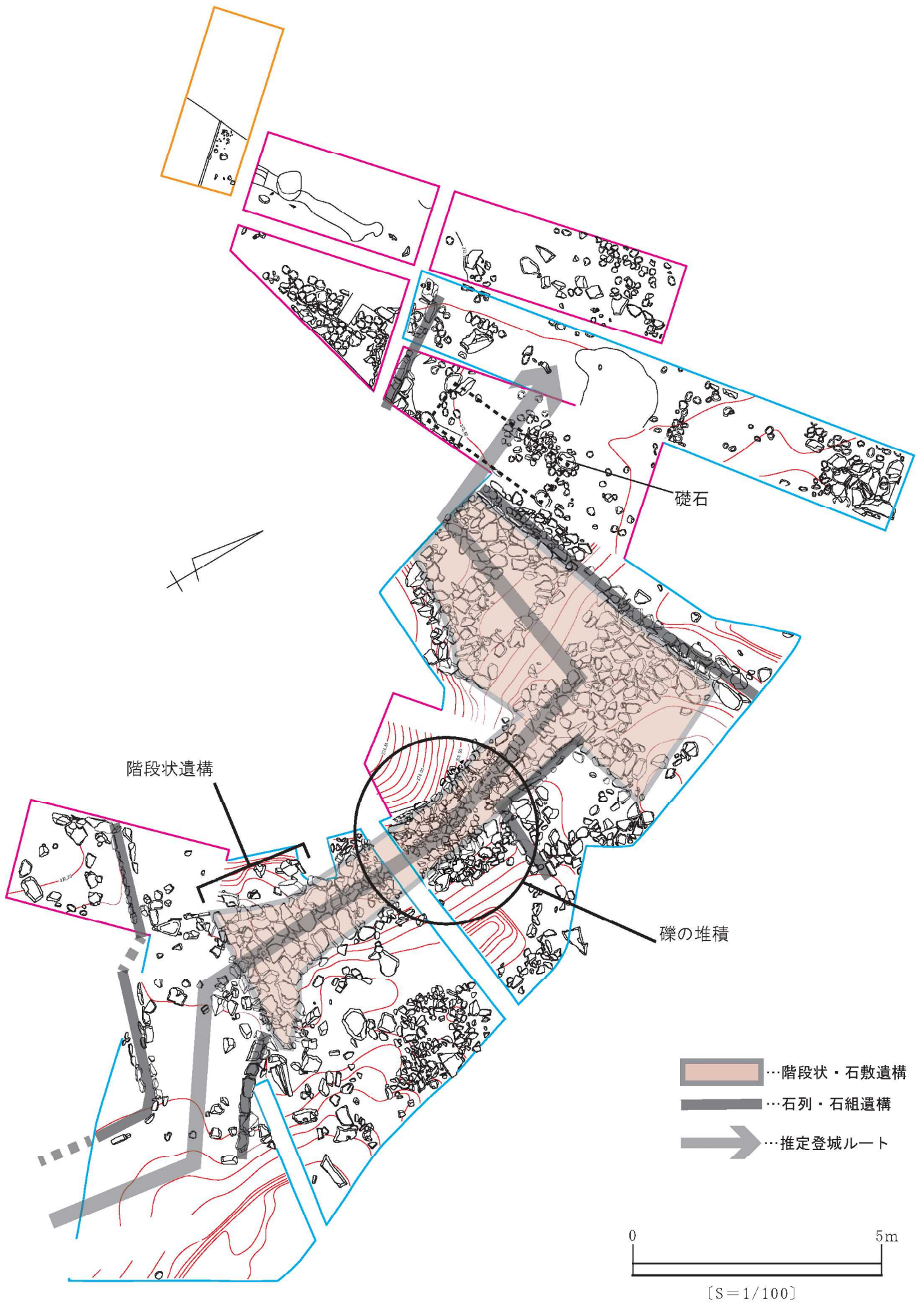
- 虎口推定箇所から階段状・石敷遺構を検出
- 石敷遺構に並行して礎石を検出→門跡
- 虎口2箇所から礫の堆積を確認→「城破り」の跡か
- 石敷遺構の一部に地滑りによると思われる段差
- 平坦部の多くは後世に削平を受ける



相州津久井古城図（部分）



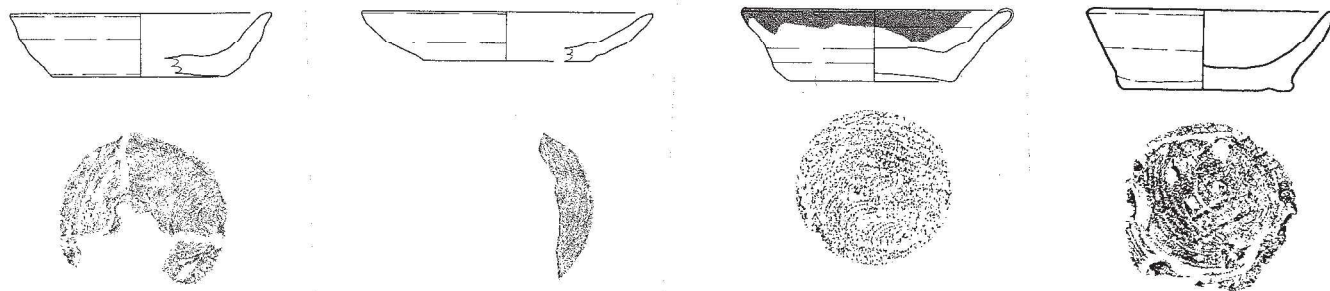
本城曲輪平面図



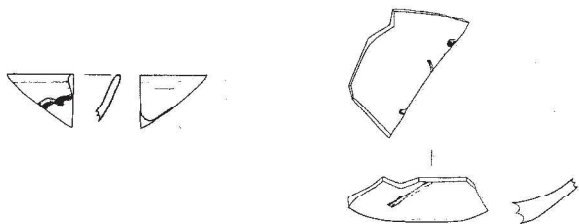
本城曲輪虎口遺構図

津久井城山頂部 主な出土遺物

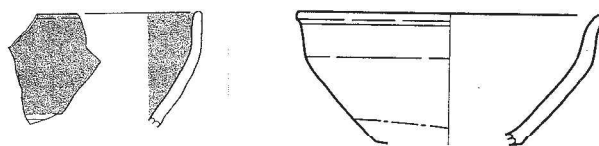
土師質皿（かわらけ）



染付皿



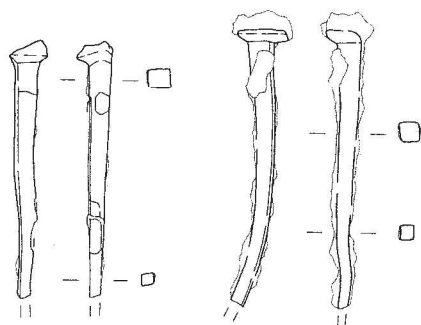
瀬戸美濃 天目茶碗



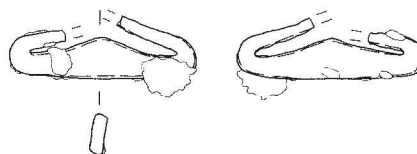
常滑 甕



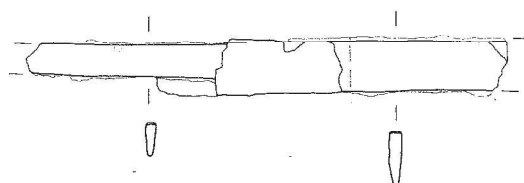
釘



火打ち金？



小柄

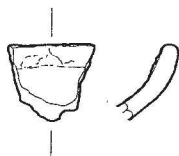


鍛冶関連遺物

かわらけ転用品



取瓶（とりべ）



銅銭（皇宋通宝）



参考文献

【一般書・論文・シンポジウム資料】

- ・ 2014 『津久井湖城山公園ガイドブック津久井城ものがたり - 過去から未来へ -』 神奈川県厚木土木事務所津久井治水センター
- ・ 伊藤正義・藤木久志編 2001 『城破りの考古学』
- ・ 宇留野主税 2010 「北条氏照の城と城下 - 滝山城と八王子城 -」 『東国中世考古学研究会第8回大会発表要旨』 東国中世考古学研究会
- ・ 大貫英明ほか 2007 『津久井町史 資料編 考古・古代・中世』 津久井町
- ・ 竹井英文 2008 「境目国衆の居城と大名権力 - 相模津久井城掟の分析から -」 『千葉史学』 53 千葉歴史学会
- ・ 中野晴久 2012 「常滑甕の展開」 『知多半島の歴史と現在』 17 日本福祉大学知多半島総合研究所

【図録】

- ・ (財) 馬事文化財団 馬の博物館編 2010 『特別展戦国の城と馬』 (財) 馬事文化財団 馬の博物館
- ・ 八王子市郷土資料館編 2004 『平成16年度特別展八王子城跡御主殿』 八王子市郷土資料館

【発掘調査報告書】

- ・ 加藤勝仁ほか 2009 『津久井城跡(本城曲輪群地区)』 かながわ考古学財団 239 (財) かながわ考古学財団
- ・ 相良英樹ほか 2010 『津久井城跡(本城曲輪群地区)』 かながわ考古学財団 246 (財) かながわ考古学財団
- ・ 相良英樹ほか 2011 『津久井城跡(本城曲輪群地区)』 かながわ考古学財団 261 (財) かながわ考古学財団